

# 無実の人が逮捕され、何年も牢獄に閉じ込められる冤罪。あってはならない。



狭山事件の石川一雄さんは、24歳で逮捕され、**32年間**刑務所に入れられ、77歳になるいままで**53年**も無実を訴えています。



袴田巖さんは、**48年**も拘禁され、**50年**も無実を訴えています。静岡地裁が再審開始を決定したのに、検察の抵抗でいまだに再審が始まっていません。



名張毒ぶどう酒事件の奥西勝さんは一審で無罪であり、多くの疑惑がありながら、再審も行われないうまま**43年間**収監され、**89歳**で病の中、獄死しました。



布川事件の桜井昌司さん・杉山卓男さんは、20代で逮捕され、再審無罪を勝ち取ったのは60代、**44年**もかかりました。

## 「勝ち取ろう無罪、なくそう冤罪」の大きな声をあげよう！



### 考えてみましょう

○あなたや身近な人が冤罪被害にあったら、冤罪を許せますか？  
○冤罪被害者は、うその「自白」をしてしまう。犯人でない人がなぜ「うその自白」をするのか。その取り調べや裁判が冤罪を生む。  
○冤罪は、人権軽視から生まれる。  
○人権を軽視する警察・検察・裁判所を、人権第一に変えさせるために、冤罪をなくすことは、誰にとっても無関心ではられないものではないでしょうか。

# 狭山と私—社会のことを狭山から学びました。

山崎和男

学生時代に狭山事件のことを知りました。社会の矛盾を狭山から学びました。それから45年。いまだに石川一雄さんは無罪になりません。24歳で逮捕されて、77歳になる今まで53年も無実を訴えています。ぼくは53年前と言えば、11歳でした。(歳がばれてしまいますね。)それから、裁判所は何度も正しい判決を出すチャンスがありながら、ことごとく真実を覆い隠す作文をしてきました。まさに、冤罪は司法の敗北だと感じます。

狭山事件を少し勉強すれば、石川一雄さんの無実はすぐに分かります。ぼくの話聞いていただければ、きっと3分で無実であることを分かっていただけだと思います。本当かどうか、一度、ぼくの話聞いていただけませんか。コーヒーでも飲みながら。



## どうして無実と言えるのか。① 万年筆は「にせもの」なんです。

被害者の高校生から奪った万年筆が石川さんの自宅から見つかったから、石川さんが犯人だと裁判所は言ってきました。しかし、逮捕された時からこの万年筆には疑惑が向けられていました。

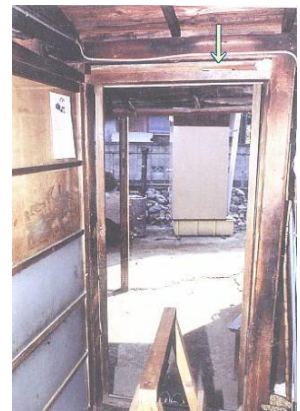
①万年筆は、2回の家宅捜索で徹底的に捜索したにもかかわらず発見できなかった鴨居から「発見」されました。刑事たちが、その鴨居も探していました。見つけれないということはありません。家宅捜索後に、誰かが置いたものと考えるのが自然です。

②「発見」された万年筆には、石川さんの指紋も、被害者の指紋もありませんでした。

③「発見」された万年筆にはブルーブラック（黒系）のインクが入っていました。しかし、被害者の万年筆にはライトブルー（青系）のインクが入っていました。被害者は殺害される当日もこの万年筆を使い、ライトブルーのインクで書かれた日記やペン習字の作品を残しています。インクの色が違うのです。

④インクの色の違いについて、裁判所は「友達からインク壺を借りて補充したかもしれない」「郵便局に置いてあったインク壺から補充した可能性もある」と説明してきました。本来「可能性」「かも知れない」というのは、被告に有利と判断しなければいけません。「疑わしきは罰せず」です。ところが、狭山事件の裁判では、「かもしれない」「可能性」は、有罪の根拠にされています。「犯人の可能性はある」で、犯人にされてはたまりません。だれも司法によって犯人にされる危険があります。

⑤しかし、「インクの補充はなかった」という画期的な新証拠（下山鑑定）が現れました。この万年筆が被害者のものではない、「にせもの」であり、石川さんが犯人でないことを示すものです。次号以下で下山鑑定の詳細はお知らせします。ご期待ください！



狭山事件やぼくたちの会について分かります。

インターネットで検索してください。  
ホームページ「狭山東三河」  
FB「石川さんの無罪を勝ち取ろう、狭山東三河の会」  
ブログ「狭山おたより日誌」

会費 カンパ送金方法 / 送金先 山崎和男

○郵便局からの場合。【記号】12090 【番号】5501181

○郵便局以外 所定の手数料必要)

【店名】二〇八【店番208】 普通預金 【口座番号】0550118